

日本大学東北高等学校同窓会会報

桜 OUDA 采

NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1957

第22号

発行日/
2025年1月1日

発行/
日本大学
東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

編集/
日本大学
東北高等学校同窓会
桜采編集部



母校70年の歴史を
見つめてきた銀杏
の木の遺伝子を受
け継ぐ若木



旧2号館南側の銀杏並木

同窓会(アカシャ会)は創立70年を迎えます!

歴史と伝統をつかってこられた皆様と、これまでも、そして、これからも...



同窓会創設70周年に 寄せて

日本大学東北高等学校
同窓会会長
村山 廣嗣 16期生



新年明けましておめでとうございます。

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます、また 同窓会活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。私たちは未来に向けて着実に歩みを進めています。令和6年を振り返りますと、社会全体で様々な変革と挑戦が進んだ年でもありました。コロナ禍を経て、社会が徐々に新たな日常を取り戻す中、私たちの生活様式や働き方は急速に変化しました。デジタル化が進む一方で、人と人とのつながりや地域の絆の重要性が改めて見直される年でもありました。同窓会におきましてもこれらの変化に対応しながら活動を展開してまいります。

さて、令和7年は同窓会創設70周年を迎える重要な節目の年となります。この節目に当たる年をお祝いいたしたく、同窓会 創設70周年記念式典を10月3日(金)郡山ビューホテルアネックスで開催いたします。長きにわたる母校の歴史を紡いで来られたことは、私たち同窓生にとって大きな誇りです。この節目の年を同窓生や先生方と

共に、盛大にお祝いしたいと思います。ぜひ創設70周年記念式典にご参加賜りますようお願い申し上げます。

同窓会会報誌『桜朶』について申し上げます。

『桜朶』は母校と同窓会の皆様をつなぐ絆として昭和32年に創刊され、先輩方の努力のもと第7号まで発行、その後担当される方の諸事情などからしばらくの間『桜朶』の発行は中止となっております。平成22年8月、実に44年の時を経て8号が復刊し、現在に至っております。本校の同窓生(卒業生)は3万9千余名となり、諸物価の高騰もあり(特に配送費)、今後の紙での発行は財政的に無理との判断に至りました。『桜朶』の紙での発行は今回で終了となります。今後はインターネットでの配信となります。何とぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

不易流行(変えなければいけないものと変えてはならない本質的なもの)

会員相互の親睦と母校の発展に寄与することが同窓会の目的であります。『桜朶』はその架け橋であり絆であります。この理念を失うことがない限り、どんなに変化しようとも『桜朶』は続くものと確信しております。『桜朶』編集に携わってこられた編集委員長の高橋先生、編集委員の先生方、同窓会役員の皆様により感謝申し上げます。

最後に令和7年が皆様にとって希望に満ちた素晴らしい1年となりますことを心よりお祈り申し上げ、同窓会のさらなる発展と同窓会創立70周年記念式典の成功に向けて、今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

生活指導部主任あいさつ

生徒指導の現場から

生活指導部主任
石川 高遠



同窓生の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、1992年に本校を卒業した同窓生(第39期)です。1996年に本校に着任し、2022年より生活指導部主任を務めています。微力ではありますが、母校と同窓会の発展に力を尽くしてまいります。

本年度の生活指導部の指導目標と取り組みについて、ご報告させていただきます。

①自立心・自立意識の育成

毎月「身だしなみ向上週間」を設定し、生徒会役員と風紀委員が中心となり、制服の着こなしや身だしなみについて考える機会を設けています。これは、生徒自身が自ら考え、責任ある行動を起こすことを目的としています。また、春と秋の交通安全週間には、登校時に交通安全委員があいさつ運動や交通ルール・マナーに関する呼びかけを行っています。こうした活動を通して、生徒が自立的に行動し、基本的生活習慣の定着と規範や校則を遵守する意識を育成するのが目的です。

②安全教育の徹底

4月の年度初めに、全校生に「緊急時対応マニュアル」

を配布し、各担任から交通事故や自然災害時における適切な対応についての指導を行いました。また、5月には郡山警察署職員による「自転車安全教室」を実施し、自転車事故の実例などを踏まえて、運転時に注意しなければならないことや、ヘルメット着用の重要性についてのお話をいただきました。啓蒙の成果もあり、本校でも自転車走行時にヘルメットを着用する生徒が少しずつ増えております。今後も引き続き、交通ルール・マナーの遵守やヘルメットの着用など、安全意識を高める指導をしてまいります。

③人権の尊重

本校では、生徒相互の共感的な人間関係を育てることを目的として講座を開講しています。特に最近では、何かとトラブルの多い情報モラルに関する指導に重点を置き、5月にはe-ネットキャラバン認定講師による「スマホ安全教室」を開催し、インターネットやSNSを使用する際の安全・安心な使い方、トラブル発生時の対処方法などについての講話とワークショップを行いました。SNSで発信する内容が、見る人に誤解や不快感を与えることがないか、また他人への誹謗中傷となる内容を掲載していないかなど、ルールやモラルについてきちんと理解させる指導をしてまいります。

以上の内容については、日頃より全教職員間で情報共有と指導方針に関する共通理解を図り、取り組んでおります。その一方で、近年の多様化・複雑化する社会情勢の変化の中で、学校と家庭、地域社会との連携がますます重要になっております。生徒たちの多面的な成長を支え、さらに生徒の地域や母校への愛校心を高めるためにも、同窓生の皆様方の変わらぬご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

我が高校時代と今…

昭和29年3月
電気科1組卒 1期生

松本 光由氏

昭和26年に新設された日本大学東北工業高校の電気科1組(強電クラス62名)に入学した松本光由さんは、本校OBの1期生。(ちなみに2組の弱電クラスは33名の入学者だった。)入学当時や高校在学中のエピソード等のお話を伺った。



◆電気科志願理由と入試倍率

「父親が東北電力の仕事をしている関係で、電気に関心がありました。当時は電気を学べるのは福島工業高校しかなかったんで、郡山に新設された東北工業高校に電気科ができることを中学の担任から紹介されてね、志願しました。倍率は高かったと記憶していますが一発で合格できました…」と穏やかな口調でお話される。福島民報昭和26年3月5日付けの記事には「なんと競争倍率四倍 四月開校の東北工業高校」の見出しとともに「今春四月から日大第二工学部内に設置開校する東北工業高校では去る二日入学試験を行なったが定員200名にたいし794名が殺到して学校当局をめんくらわした。新制高校で四倍の受験率は県内はもちろん、全国でも珍しいといわれ受験者はほとんど全県下からあつまっている。(原文ママ)」とある。かなりの難関だったことがわかる。

◆忘れられない校内10kmマラソン大会1位

「高校一番の思い出は、1952(昭和27)年10月9日、私が2年生の時のマラソン大会(10km)で1位となったことですね。全校生徒といっても開校の翌年なので、1年と2年しかいませんでしたけど… 1位の記念バッジを小林巖校長先生よりいただいたのが良い思い出になっています。マラソンは最後まで走り抜ける自分との闘いであるため、特に高校時代には心身錬磨のために非常に有益です。車による送迎などももちろんなく、生徒のほとんどは下駄履きで通学していた時代なので、皆体力と精神力はありまし



バッジの入っていたケース 日付と記録タイムメモあり

た…」と語る松本さん。現在、母校ではマラソン大会は実施されていない。2019年10月の台風19号による水害(阿武隈川の護岸工事の重機により堤防を走ることが困難)や、その後のコロナ禍での運動制限に加え、マスクをつけたまま走ることが危険であり、保護者や地域住民の理解を得られないことなどを理由に歴史ある行事が消えてしまったことに、「…それはとても残念です。高校時代に心身を鍛えることはとても大事だと思います。私の時は5kmで折り返して、49号線金屋橋から学校まで戻るのが一番つらかったですね。体力がどれだけあるか試されるわけですから、生徒の将来のためにも持久走はぜひやるべきだと私は思いますね。学校行事として復活させることはできないのか…」と、反対に松本さんから提案されました。

◆他校体育館を借りてのバスケットボール練習

入学当初は野球部に所属したが、練習中に肩を痛めて退部。2年の秋からは、中学で経験したバスケットボール部に所属仲間数名と汗を流した。高校の体育館は他の部との兼ね合いから毎日使用することはできず、安積女子高校(現:安積黎明高校)の体育館を借りて、女子校の生徒と一緒に練習することもしばしばだったとか。会津高校から転校してきたバスケが抜群に上手な友人から手ほどきを受けて楽しく活動したという。スポーツ全般が好きで松本さんは、「バスケットボールをしていたお陰で俊敏さと体力が備わり、それがマラソン大会の結果に結びついたようです。また、定年後の登山にも大いに役立ったのは間違いないですね。」と振り返る。

◆瑞宝双光章受賞・

定年後は登山に挑戦!日本の山3087山制覇

1期卒の松本さんは昭和29年3月に卒業する。しかし、終戦後の国内の不景気のため就職には苦労したという。当時同級生62名の内、就職したのはわずかに数名のみ。しかも自営業がほとんど。昭和29年といえば1945年(昭和20年)の終戦から9年しか経過しておらず、戦後の日本がどのような状況だったかは想像に難くない。松本さんは約2年間の就職浪人を経て、国家公務員(旧郵政省職員)と





して、東北エリアを中心に定年まで勤務。仙台市にある泉ニュータウンの泉西郵便局、初代局長としての功績が認められ、今年（令和6年）1月に「瑞宝双光章」を受賞された。一時期の体調不良を払拭するため、退職後に一念発起し、「山に登る」決意をしたという。以後約20年間、すべての移動を自ら運転する自家用車でこなし、単独で北海道から沖縄まで日本の山々、その数3087山を制覇している。そのお陰で完全に健康を取り戻し、弱かった視力までも回復させ、山々の頂上からの絶景をめがね要らずの裸眼で満喫してきたとのこと。山々の三角点をめざす挑戦はもちろん危険と隣り合わせではあるが、「道なき道」を踏破して、頂上をめざすのはロマンであったと誇らしげに語る。

◆後輩たちへのメッセージ (大切なのは気力・体力・家族の絆)



「私の高校時代は、みな下駄履きの時代です。革靴はすべてオーダーメイドで高価なものでした。私が初めて革靴を履いたのは修学旅行の時…。ですからその後の人生においては、下駄履きで登校していた時期のことを思えば、どんな苦勞でもできました。今の生徒たちは恵まれています。私が大切にしているのは気力・体力・家族の絆です。何をするにも一に気力、二に体力が重要です。健康は、その結果としてついてくる。だからこそ、若い生徒さんたちには心身を鍛えてほしいと願います。それから、人は一人では生きていけない



前列中央が松本さん革靴履き

わけですから、高校時代にはぜひ思い出に残るような友人を沢山つくって青春を謳歌していただきたいですね。日大東北には「忠恕の心」・「自主創造」・「真剣力行」という素晴らしい三つの校訓がありますが、それをめざしていけば必ず素晴らしい人生を送れるのではないのでしょうか。家族の絆も大切にしながら…。」

「私が心置きなく山に出かけられるのも、本当に家内のお陰なんです…。」と、心から奥さんを労う松本さんの言葉に、力がこもる。深い信頼関係で結ばれているご夫婦に敬服いたしました。



永盛駅から阿武隈川に架かる一本橋のガンタラ橋（現：永徳橋）。橋を渡るときに「ガタン・ゴトン…」と下駄の音が響くのがその由来だと柳沼力夫先生（工業化学1期生、現須賀川支部長）から伺ったことがある。今はなきアカシヤ林。梢の白い花と、その香りに包まれて登校する1期生の先輩方に想いを馳せる。高校時代を懐かしみ、家族に支えられながら山に挑戦した話をする松本さんの目は、少年のように澄んでいて。学校周辺の風景はすっかり変わってしまったが、活気に溢れた話し声と「ガタン・ゴトン…」と下駄履きの音が聞こえてくる気がした。几帳面に整理された「登頂に至る詳細な資料と写真」を拝見して、私はなぜか百名山を制覇したような気持ちになった。「今後は社会への恩返しのために自分に何ができるかを考えたい。」と、松本さんは話を終えた。（編集部：高橋 敏行）

70数年前の思い出

昭和29年3月建設科卒 1期生

柴原 保治氏

第1期生建設科の柴原保治です。私が学んだ校舎は、元日本軍の飛行場（金谷飛行場）の跡地で、木造の兵舎でした。戦時中は米軍に集中攻撃を受け、校舎の壁や階段には機関銃の穴が至る所に見られました。通学には安積永盛駅より阿武隈川にある板橋を渡り、雨期になると洪水で渡れないので、数km先の徳定地区を迂回したことも、校舎に着くまで苦勞の連続だったことを記憶しています。通学時の履き物は、靴ではなく下駄でした。今の若い方々は分らないかも知れませんが、長く履いていると下駄の歯（下の部分）がすり減って板状になるばかりか、鼻緒が切れることもあり、素足で登校したこともあります。

授業は、高校の先生は少ないことから、専門科目のほとんどは大学の先生が担当されました。先生の都合で度々休講があり、各自自習となることも少なくありませんでした。まだ若い高校生の私たちは、「休講」と聞くと、皆喜んで自由に遊んだという懐かしい記憶もよみがえります。ところで、当時教わったことで、今でも鮮明に記憶していることがあります。それは、鉄道レールの軌間（間隔）は広軌（1.435m）と狭軌（1.067m）の呼び方です。これが一風変



わった言い方で、イチポイントシーサンゴとイチポイントレイロクナナと呼ぶことです。現在の新幹線は広軌です。一度復唱して

覚えてみてください。話題の参考になるかも知れません。

さて、私の所属したクラブ活動はスケート部でした。スケートリンクはなく、近くの氷の張った溜池での練習でしたので、滑ることができかどうかは常に天候次第でした。県大会は土湯温泉で行なわれ、ここにもリンクはなく、近くの池の天然氷の上で大会が開催されていました。我が校は常に連覇の記録を達成し、選手の高橋鉄太郎君（化学科）と安藤明治君（化学科）は毎年国体に参加し、母校の榮譽のために頑張ってくれました。



ところで、学校での給食はありませんでしたので、各自弁当持参でした。冬期に冷たい弁当を食べるのはみな嫌がり、私たちはこぞってストーブの回りに自分の弁当を置いて温めましたので、授業中はおかずの匂いが教室に充満し、異様な雰囲気になったのを覚えています。

私たちが通った頃は男子校でしたので、現在のように男女共学の後輩のみなさんがとても羨ましいです。共学であれば、女子生徒との出会いもあり、楽しみができたのではと思います。

私は日本大学東北工業高校を卒業後、建設関係の仕事に就きました。ダム、トンネル、ゴルフ場、新幹線工事などに携わり、日本の各地に良い思い出が沢山あります。現在は趣味に実益を兼ねて、我が家の近くで25年間にわたり4万匹のペット（ミツバチ）と共に楽しく暮らしています。今後も、我が母校「日大東北」の発展を望みます。

89歳、頑張っています！

ふるさとの訛りなつかし

昭和36年3月建設1科卒 8期生

青山 陽一郎氏

私は昭和18年2月に東京滝川で生まれました。まさに太平洋戦争の真っ只中であつた。しだいに戦火が激しくなり、父の会社の硫黄鉱山が福島県耶麻郡吾妻村にあつたことから、家族全員でそこへ疎開した。小学校・中学校は中ノ沢温泉の入口にあつて、そこへ通学していた。途中で軽便鉄道の沼尻駅（始発駅）があつた。

高校へはその軽便鉄道に1時間乗車し、終点の川桁駅で磐越西線に乗り換え、そこからさらに郡山駅まで1時間、また東北本線に乗り換えて、安積永盛駅までの汽車通学だった。朝の5:35分に家を出て、5:45分の始発に乗り、学校までは2時間40分を要していた。帰日も授業によって異なるが、遅い日だと、帰宅は20時半を過ぎていた。冬期（12月～3月まで）は軽便鉄道の一歩列車が7時台となり、授業に間に合わないため、川桁駅前に下宿していた。今にして思えば、よく続いたなあと思うが、その当時は大変だとか、苦しいだとか思ったことは一度もなかった。

汽車通学していた軽便鉄道も、時代の流れで鉱山の閉山にともない、昭和43年廃線となった。その軽便鉄道だが、昭和29年に丘灯至夫作詞・古関裕而作曲で歌われたヒット曲、「高原列車は行く」のモデルであつたことを知る人は、今では少ないかも知れない。

私の高校3年間の生活は建設1科の所属であり、当時クラスの世話役として正幹事1名、副幹事2名が選ばれていた（1年次のみ前期・後期に分かれていた）が、私は3年間正幹事（現：学級委員長）を引き受けた。クラスメートの協力があつて、無難に過ごせたのかと思っている。（今でも郡山市のI君とは交流があり、本宮市のU君とは年賀状のやり取りが続いている）

高校卒業と同時に私は生まれ故郷の東京へ進出した。その後、22歳で建材メーカーに就職。東京を振り出しに、大阪・博多・広島・西宮・名古屋、そして今は大阪に落ち着いている。関西圏にいる（た）時は、高校野球で母校が出場する度に必ずアルプス席に行つて一緒に応援した。目的はもちろん後輩選手を応援することだが、応援席でみんなが話をしているあのアクセントが聴きたくて行つていたのかもしれない。石川啄木の短歌をもじつて「ふるさとの訛（なまり）懐かし甲子園入並みの中にそれを聴きにいく」を満喫している。しかし、ここ最近感じるのは、アルプス席も標準語が多くなってきているようだ。福島弁を懐かしむ私としては、少し淋しく思っている。

ところで、疎開先の沼尻のその後の話だが、父が勤務していた硫黄鉱山の製錬所は平成12年に「ボナリ高原ゴルフ場」となり、立派に生まれ変わっている。酸性の強い土地でよくぞここまで、と素晴らしいゴルフ場になったことを嬉しく思うとともに感慨深いものがある。

最後になりましたが、桜葉編集部の皆様の日頃のご努力に対し、心より感謝申し上げます。

令和5年度 母校のトピックス



卒業生一同



卒業証書授与 卒業生代表 渡辺愛友里さん



卒業生退場



6組



3組



3学年教員団



7組

令和5年度 卒業生合格状況

令和5年度卒業生総数516名 ※延べ人数、令和6年3月11日現在

日本大学 312名 国公立大学 40名 他私立大学 310名 専門学校 4名 就職 名

◆ 日本大学

法	20	経済	15	芸術	5	危機管理	2	生産工	25	生物資源科	18
文理	23	商	19	国際関係	18	理工	54	工	101	短期大	1

◆ 国公立大学

福島大学	10	会津大学	9
------	----	------	---

◆ 私立大学

※詳細は学校HPをご覧ください。



東京理科大学	2	立教大学	1	中央大学	2	明治学院大学	3	芝浦工業大学	4
明治大学	2	青山学院大学	1	法政大学	1	成蹊大学	2	東北学院大学	23
同志社大学	2								ほか

令和五年度同窓会賞



鈴木 柚羽 陰山 桃華
馬場妃奈乃 遠藤 優衣
高橋 翼

三世代賞

受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品として置き時計が贈られました。令和4年度までに79名の受賞があり、今回の5名を合わせると計84名の受賞となっています。

※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。

令和5年度 アカシヤ会学業努力賞



横田 結衣(1組) 熊谷 空(5組)
菅野 大和(2組) 坂本奈都子(5組)
塚野 遼祐(2組) 松野 凌大(6組)
矢吹 彩(2組) 森合 咲心(11組)
蓮沼 玲菜(4組) 長沼 忼成(12組)

令和5年度 アカシヤ会スポーツ・文化功労賞



工藤 心暖(1組) 西川 炎歩(2組) 鈴木 志門(6組)
小針 幸誠(1組) 芳賀 秀哉(2組) 坂内 優太(6組)
佐藤慎之助(1組) 吉成 優奈(2組) 菊地 瑛介(7組)
佐藤 悠佑(1組) 遠藤 奨汰(3組) 家久来 蒼(8組)
槌谷 蒼太(1組) 古川 裕菜(3組) 齋藤 陽向(8組)
新妻 大希(1組) 安田 悠人(3組) 須藤 巧(9組)
堀米 涼太(1組) 山口ありす(3組) 佐藤 悠(10組)
曲山 純平(1組) 村田 裕加(4組) 鈴木瑠璃子(10組)
三宅 花音(1組) 大和田歩華(5組) 藤田 抄己(10組)
箭内 洸斗(1組) 鈴木 陽菜(5組) 秋葉 大地(11組)
黒川 莉織(2組) 御代田琉加(5組) 中山 和奏(11組)
佐久間光琉(2組) 大和田雄大(6組) 橋本 夢芽(14組)
高橋りょう(2組) 工藤 礼暖(6組)

同窓会70周年記念行事 開催決定！

令和6年9月28日(土)、午後1時から、「第1回70周年記念式典実行委員会」が開催され、令和7年10月3日(金)に同窓会総会および記念式典を開催する方向で検討が進められ、以下のように決定した。

日 時：2025年(令和7年)10月3日(金)午後6時～

会 場：ビューホテルアネックス

第一部：定例総会 第二部：70周年記念式典

詳細については、今後の実行委員会を経て検討して参ります。なお、令和6年度の定例役員会において、会報誌発送業務における費用削減と会員への迅速な情報発信を目的として、「日本大学東北高等学校同窓会公式LINE」を開設しました。

母校同窓会公式LINEへのご登録をお願いいたします。

次回の会報誌『桜朶23号』からはデジタル配信されます！

会報誌23号からは紙ベースによる印刷送付を停止いたします。同窓会会報誌「桜朶」はPC・タブレットまたはスマートフォンからご覧頂けます。何とぞご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。同窓会からのお知らせ(お問い合わせを含む)は公式LINEにて配信いたします。**記念式典に関する情報等**もこちらの**公式LINE**にて配信予定ですので、会員皆様のご登録を重ねてお願い申し上げます。

なお、従来通り紙での送付を希望される方は、巻末はがきを利用し、「印刷送付希望」欄に☒チェックを入れてポストへ投函ください。

登録は
↓こちらから↓



支部だより

郡山支部



令和6年6月28日(金)
郡山ビューホテルアネックス『雲水峰』

須賀川支部



令和6年10月25日(金)
ホテルグラシア須賀川

本宮支部(南達会)



令和6年2月10日(土)
割烹『かわはら』



サイエンスカフェ

主催福島大学農学群食農学類平教授と有志の学生の方々
福島大学農学群食農学類3年(令和3年度卒 第68期生) 加茂 葵さん

令和4年12月17日・令和5年9月13日・令和6年12月11日、本校理科実験室にて福島大学食農学類の皆さんが来校し、「サイエンスカフェ」というイベントを開催してくださいました。



本校初のサイエンスカフェ(令和4年)

サイエンスカフェ？

『サイエンスカフェ』とは、福島県内の学校や施設に出向いて、未就学児から年配の方々と一緒に科学実験を行い、科学の楽しさを知ってもらう活動です。

福島大学食農学類 教授 平修(たいら しゅう)先生と学生有志のみなさんで3年前から開催されています。*

本校での開催きっかけは卒業生の大学紹介から

卒業生の加茂葵さんと平修教授が、福島大学食農学類の紹介をしに来校され、その中でサイエンスカフェに参加されていること、高校時代コロナ禍で実験ができなかったことが心残りと言っていたことがきっかけです。



本校II1年生にPR中

母校で実施したい(高校で初となる開催へ)

大学に戻り、母校で実施したいと話したところ…「やってみよー」と、教授と仲間みなさんが賛同して下さり初の高校実施に漕ぎ着くことが出来ました。



平教授とサイエンスカフェのメンバー

加茂葵さんに、サイエンスカフェや大学生活、そして高校生活から振り返って頂きました。

コロナ禍での「食べる通信」

私の高校生活

コロナ禍となり、制限ばかりの高校生活。文化祭、体育祭、修学旅行までもがなくなり、正直、高校生活の楽しさは友達と話すこと以外にありませんでした。IIコースだったため、「遅くまで授業を受けて、家に帰る」その繰り返しの日々でした。それ以外に何かあったかな……卒業時に、先生方が思い出作りの為のイベントを実施して下さいたことは鮮明に覚えています。とても感謝しています。「打ち上げ花火」ととても綺麗でした。

学校以外だと、「高校生が伝えるふくしま食べる通信」という、福島県内の農家さん取材し冊子にまとめるという活動を1年生の冬に見つけ、この活動の一員となりました。そこで出会う農家さんの言葉や考え方などに惹かれ、農学を学びたいと思うようになりました。

悩んで悩んで 調べに調べて

～医療系…コロナ…植物の病気の研究へ～

進路について

「農学部に進学しよう」とは、高校2年生まで考えてもいませんでした。小学生の頃から、医療系に進みたいと言いつけてきたので、それを曲げるのがとても嫌でした。変なところで負けず嫌いを発揮するもので。考えが変わったのは、コロナでした。医療に携わっている人たちを見て、私はウイルスという見えないものを守る側として、立ち向かう勇氣はないと思いました。そんな時に、食べる通信で取材した農家さんが野菜を見てつぶやいた一言に私は、はっとしました。「これ、病気にかかっているなあ……」その時、植物にも病気があり、さらに「植物病理学」という分野が存在することを私は初めて知ったのです。進路を見失っていた私にとって、それは一筋の光となりました。高2の冬のことでした。

そこから私は、農学部で植物病理学の研究ができる大学を片っ端から調べ、食べる通信での経験を活かすために福島大学を選びました。

大学は夢の空間 サイエンスカフェとの出会い…人との出会い

大学入学後、サークルオリエンテーションがあり、そこで出会ったのが「サイエンスカフェ」でした。様々な方々と接することができ、コミュニケーション力を向上させることができたことに加え、人に分かりやすく説明する力なども身に付いたと思います。また、大学の先生方とも絆を深めることができました。この活動



のおかげで高校に出向き、実験室を使い、大学の先生と仲間と共に高校生たちと、pHの測定やビタミンの滴定実験などを行うことができました。

もうひとつ、近所の農家さんに思い切って話を伺いに行き、そのご縁で農作業を手伝うようになりました。そこで「農学は日常の景色の中から学ぶことができる」ということに気付きました。教科書が手元になくても、畑・水田・植物とふれあい、観察していく中で、多くの発見があり、知識も得たり、学んだりすることができます。これまでとは違う視点で景色を観て、様々なことが考えられるようになった生活がとても楽しく、農学部に進学してよかったと心から思っています。



今思えば「宮城の畑」が 農学に惹かれた私のルーツ？

私が農学に惹かれたルーツを考えてみると、幼少期から宮城にある祖父母の家で農作業の手伝いをしたり、幼稚園でブドウを栽培していたりしていたことにあると思います。当時から、作業が楽しいと感じてましたね。そして、外で遊ぶことも大好きでしたね(笑)

医療系の道、後悔は… 植物の病気の研究に邁進

医療系の道を選ばなかったことに後悔はありません。今がとにかく楽しすぎて。

ただ、憧れみたいな部分がどこかにあります。だから、ラグビー部のマネージャーになりました。ラグビー部を選んだ理由は、ラグビーの試合を観ることが好きなこと、怪我が多いスポーツだと思ったからです。選手が怪我をしたときに、迅速な初期対応ができるようにSAという資格を取りサポートを行い、医療系の道も部活で叶えられています。



そして3年生となり、植物病理学研究室に所属できました。夢実現の第一歩です。植物の医者として農業の視点から多くの人の役に立ちたいと思っています。

いま振り返ると、素敵な出会いに恵まれていたのだと感じています。大学入試の際に極め細かい指導をして下さった先生方にも感謝しています。

今回、このような機会を設けて下さった同窓会の方々にも感謝しています。このたくさんの出会いに感謝し、これからも出会いを大切にしていきたいと思っています。



令和5年に実施された際の集合写真

※サイエンスカフェの現在

本校での高校生対象カフェを皮切りに、現在は県内の高校、また、他県からの依頼も多々あり出張イベントを実施している。今年10月には北海道からの依頼もあり、精力的に活動が続けている。

なお本イベントは福島県信用保証協会寄附金による地域活性化活動助成事業である。

今年2月「JAふくしま未来」と「みり経営研究会(福島県)」からの表彰を受けた。



後輩大内さんと

さらに、この活動が福島大学食農学類の三大サークルのひとつとなり、大学紹介パンフレットに、本校開催時の写真が掲載されている。

本校卒業生は加茂葵さんが門戸を開き、大内葉摘さん(令和4年度卒)もメンバーとなり、昨年2度目の本校開催時から参加してくれています。

すべてが手作り、処理が簡単な試薬を考案

どこでも簡単に出来、安全、そして楽しい

それがサイエンスカフェ

コロナ禍で、思うように新校舎の理科実験室を利用することが難しい状況でしたが、卒業生のご縁とIIコース、教務部、理科の先生方等のご協力を頂き、このような素敵なイベントを開催できました。

卒業生がつないでくれた素敵なお縁(出会い)を大切にしていきたいものです。

令和6年12月11日

昨年も母校でサイエンスカフェを開催できました。



退職教職員の会 令和6年度

退職教職員の会、令和6年度総会が令和6年6月1日(土)午前10時より、高校のSAKURAホールを会場に開催された。参加者は14名。来賓は佐々木校長・花里教頭のお二人。進行は齋藤政雄先生(幹事)が担当した。会に先立ち、故小松基扶先生と菊地修三先生への黙祷が捧げられた後、会長挨拶、来賓挨拶、学校の近況報告と続いた。総会では令和6年



度より現会長の小山田正宏先生に代わり、野口 哲先生を新会長に、斉藤栄一先生と渡邊弘幸先生の2名を副会長に選出した。また11月5日(火)には定例の「秋の昼食懇親会」が開催された。和気藹々とした雰囲気の中で近況を報告し合い、楽しいひと時を過ごした。

阿部雄一先生卒寿の祝い



令和6年2月3日(土)ビューホテルアネックス13階コションドールで、卒寿(90歳)を迎えた阿部雄一先生の「卒寿を祝う会」が開催された。主催は相撲部OB会(発起人:小林正道氏)。他に、仙台在住の鈴木盛雄氏(12期生)と沖縄在住の池宮城晃氏(16期生)が遥々お祝いに駆けつけた。同窓会からはお祝いの花束が贈呈された。また、祝歌として教え子の一人、高橋敏行氏(26期生)が「マイウエー」ほか数曲をギター弾き語りで熱唱し、阿部雄一先生の益々の長寿を祝願した。



阿部 正栄先生 展示会開催NHKニュース!

昭和20年代から30年代にかけて子どもたちに人気を博した懐かしい漫画やレコードなど、約130点を集めた企画展が、令和6年6月、白河市の中山義秀記念文学館にて開催。その模様がNHK他で紹介されました。詳しくは→



渡邊 弘幸先生 切り絵作品個展開く

2024.11.11(月)~11.20(水)

郡山市逢瀬町の古民家カフェギャラリー「芋銭」で、「切絵楽(キラク)」開催。作品対象は建築物・四季の風物詩・自然など幅広く、見る人の心を癒やせる丁寧な作品作りを心がけているとのこと。定年後、益々パワーUPされた弘幸先生です!



受章おめでとうございます

地方自治功労賞

昭和35年3月普通科2組卒 7期生
前後 公氏

2011年以来3期12年にわたり、猪苗代町長などとして町勢の伸展と住民の福祉の向上に尽力し、地方自治の振興に寄与。

総務大臣感謝状

昭和43年3月普通科2組卒 15期生
瓜生信一郎氏

地方議員として35年以上貢献

瑞宝単光章受賞

昭和44年3月普通科3組卒 16期生
国分 勇氏

福島県巡査として住民の安全に貢献。

瑞宝単光章受賞

昭和54年3月建築科卒 26期生
白石 一美氏

33年間地域の防火防災活動に尽力。

瑞宝双光章受賞

昭和57年3月機械科2組科 28期生
水間 一信氏

元陸自郡山駐屯地業務隊衛生科長。東日本大震災直後より全国からの派遣部隊受け入れ業務に尽力、「東日本の復興」に貢献。

寄贈

★池宮城 晃氏(普通科2組昭和44年卒 16期生)
○高校図書館と郡山市に戦争記録書籍12冊を寄附

米国国防総省が撮影した写真の著作権を入手し、独自に編集した「太平洋戦争写真シリーズ」8冊と氏が中国(満洲・長春・哈爾濱)で撮影した書籍等計12冊。郡山空襲(日東紡績や保土谷化学工場跡)の生々しい写真も収められている。沖縄からオンラインで贈呈式に臨んだ池宮城氏は「戦争がこれほど悲惨で残酷であることを若い人たちが知るきっかけになってほしい。」と述べた。郡山市中央図書館と高校、日本大学工学部の図書館で閲覧できる。



池宮城氏の「歩む道を決定付けた我が母校」17号P3~5 参照



返信はがき掲載希望コメント

※紙面の関係上、一部割愛させていただいております。ご了承ください。

榊原功城氏：普通科昭和46年1組卒 18期生

私は須賀川で先代が立ち上げた土木関係の会社を引き継いだ三代目です。最近の業界の状況はなかなか厳しいというのが実情です。というのは、以前に比べ、若者が関心を持たない業界となってしまったからです。募集しても応募する若者は減っており、人集めに苦労しています。高校の生徒募集も同じではないでしょうか。少子化に伴い、私の地元の県立高校は次々に廃校または統合されています。私学は企業と同じです。生徒を集める「カラー」が必要です。OBとして提案したいのは、ここ数年全国で活躍している「陸上部」を日大東北のカラーとして全面に打ち出すことです。メディアをフルに活用し、県全体に「陸上カラー」を浸透させ、母校日大東北が益々発展するよう祈ります。

(※榊原氏は令和5、6年度 同窓会副会長としてご活躍中です。事務局)

嶋栄吉氏：普通科昭和53年卒 25期生 青森十和田市在住
会報、いつもありがとうございます。母校は近年、学業面で日本大学以外の国公立大への進学者も増加しているのに加え、スポーツ面(特に陸上部)では日本一になるなど、めざましい活躍が見られ、私たち卒業生の誇りです。母校の60周年記念事業の折、私のクラス会の写真と記事を掲載していただき大変恐縮しています。また、恩師小松先生の訃報(令和5年4月8日享年79歳)を福島在住の級友から受け時は本当に驚き、直ぐに奥様に弔意を伝えるために電話しました。自然と涙が溢れました。その後の「恩師を偲ぶ小特集」は時宜を得た企画でした。事務局編集部の先生方には心より感謝申し上げます。私の追悼文が掲載されたことも感謝でしたし、安堵いたしました。これまでに「桜朶」に掲載された記事と写真などをまとめたフォトアルバム『小松基扶先生思い出の写真集』を作成し、母校事務局に一冊、小松先生のご自宅の仏壇へも贈らせていただきました。私は、今後同窓会会員の一人として、母校70周年に向けた着実な歩みを心より祈念するとともに、「孫の世代の後輩たち」のために何ができるのか、考えたいと思っています。

岡崎光孝氏：普通科平成元年卒 36期生 郡山市在住

去年父親が他界し、母親も脳梗塞になってから施設入所となったため現在一人暮らしです。

薄井介氏：土木科昭和49年卒 21期生 郡山市在住

【知的財産権のお知らせ】

以下の6題の特許を取得しています。特許に興味のある方、また相談のある方は気軽にご一報ください。①柱の製造方法、②融雪機、③融雪機械、④融雪車両、⑤医療用枕(まくら)⑥支柱用発電装置の設置方法(太陽光)

※連絡先も明記していただいております。関心のある方は事務局までご一報ください。

お悔やみ 心よりご冥福をお祈り申し上げます。

●相楽 新平氏(昭和30年機械科1組2期生)

1996(平成8)年から3期12年にわたり須賀川市長を務め、全国市長会副会長等を歴任した相楽新平氏が11月21日逝去された。享年88歳。「自然との共生」をテーマに170万人を動員した「うつくしま未来博」の誘致に尽力した。2010年11月の叙勲で「旭日小綬章」を受賞。『桜朶10号』3ページには相楽氏「永遠に栄えよ我が母校」のエールが残されている。QRコードより「2012.08.06 同窓会会報「桜朶10号」からご覧頂けます。



●皆さんの近況をお知らせください。

クラス会の呼び掛けや近況報告を会報に掲載することができます。

※会報に掲載を希望する方は、☐に☒印をしてください。

☐に印がない場合は掲載をいたしません。 ☐掲載希望

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。従来どおり紙の会報の送付を希望される方は、下記の☒印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

☐ 紙の会報の送付を希望する





桜采編集部よりお知らせ

★次回桜采23号からはデジタルでの配信となります。公式LINE登録をお願いします。

※今まで通り、紙での送付を希望される方は下の「返信はがき」をご利用ください。

★次回23号(2025年冬発行予定)の原稿を募集します。公式LINEまたは事務局までご相談ください。

★同窓会創立70周年記念式典が開催されます。皆様のご参加をお待ちしています。

日時：令和7年10月3日(金) 場所：郡山ビューホテルアネックス 【お問い合わせ】事務局 024-956-8852(向田)



＜お詫びと訂正＞ 前号(21号)の10頁、旧日本大学農獣医学部農業工学科(現:生物資源科学部アグリサイエンス学科)の記述(右上6行目)は、誤りでした。正しくは、「環境学科」でした。お詫びし、訂正いたします。

編集後記

桜采22号を発行できたことに安堵しています。原稿をお寄せくださった方々、インタビューにお応えいただいた松本様をはじめ、多くの関係諸氏に心より感謝申し上げます。2025年(R7)年は本同窓会「創設70周年」を迎えます。一般に60で還暦、70歳は唐の詩聖、杜甫の「曲江」の一節「人生七十古来稀なり」にちなんで、「古稀(こぎ)」をお祝いするのではないのでしょうか。◆ところで、21世紀も四半世紀を迎えようとしており、大きなうねりの中で歴史的な大転換を迫られているようです。諸先輩方の多大なご苦勞によってスタートしたこの『桜采』も例外ではありません。◆「新しいぶどう酒は新しい革袋に入れよ。」という言葉があるように、新しい時代にはそれにふさわしい新しい技術や方法があり、『桜采』も進化発展していくものと信じます。◆夏には太陽の暑さから教室を守り、秋には色鮮やかに見るものを魅了した旧2号館の大銀杏の苗木(表紙右上写真)が、ゆっくりと成長する姿に、どうぞ次世代の『桜采』を重ね合わせながら、今後とも見守っていただければ幸いです。(編集部一同)

《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采OUDA」1号～21号のバックナンバーもご覧いただけます。<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0

料金受取人私郵便

郡山局承認

4453

差出有効期限
令和7年12月20日迄
です。切手をはらず
にお出ください。

郡山市田村町徳定字中河原1

日本大学東北高等学校

同窓会 行



【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。

同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。

上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。

個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシヤ会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会

郡山市田村町徳定字中河原1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

同窓会HP

〒			
現住所	都道府県		
TEL	携帯		
氏名	生年月日	男・女	
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築 年3月卒		